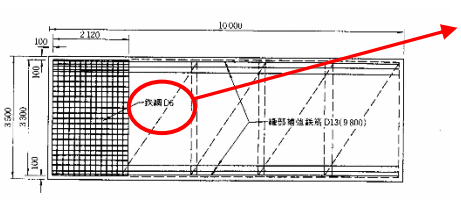
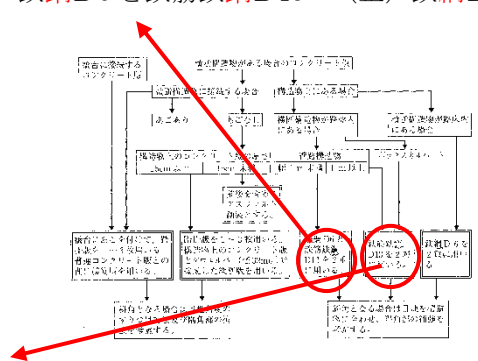


舗装設計施工指針 (H18.2) 正誤表 [1/5]

頁	箇所	誤	正																						
38	下から3行目	表-3.6.4	表-3.6.3																						
65	下から12行目	② 吊り金具、・・・高さ <del>が</del> 5mm以下	② 吊り金具、・・・高さ <del>を</del> 5mm以下																						
81	表-3.6.2 粒度調整砕石の透水係数の欄	「 $2 \times 10^{-6} \sim 6 \times 10^{-2}$ 」	「 $2 \times 10^{-6} \sim 6 \times 10^{-4}$ 」																						
82	下13行目	適切な補修の設計を行うことが必要となる。	適切な補修の設計を行うことが必要となる。																						
83	表-3.6.3	<p>下一段の罫線の区切り</p> <table border="1"> <tr> <td>クラッシュラン、鉄鋼スラグ、砂など</td> <td></td> <td>0.25~0.15</td> </tr> <tr> <td>セメント安定処理および石灰安定処理</td> <td></td> <td>0.25~0.15</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">セメントコンクリート版</td> <td>破損の状態が軽度または中度の場合</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>破損の状態が重度の場合</td> <td>0.85~0.5</td> </tr> </table>	クラッシュラン、鉄鋼スラグ、砂など		0.25~0.15	セメント安定処理および石灰安定処理		0.25~0.15	セメントコンクリート版	破損の状態が軽度または中度の場合	0.9	破損の状態が重度の場合	0.85~0.5	<p>「セメントコンクリート版」は「下層路盤」に含めない。</p> <table border="1"> <tr> <td>クラッシュラン、鉄鋼スラグ、砂など</td> <td></td> <td>0.25~0.15</td> </tr> <tr> <td>セメント安定処理および石灰安定処理</td> <td></td> <td>0.25~0.15</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">セメントコンクリート版</td> <td>破損の状態が軽度または中度の場合</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>破損の状態が重度の場合</td> <td>0.85~0.5</td> </tr> </table>	クラッシュラン、鉄鋼スラグ、砂など		0.25~0.15	セメント安定処理および石灰安定処理		0.25~0.15	セメントコンクリート版	破損の状態が軽度または中度の場合	0.9	破損の状態が重度の場合	0.85~0.5
クラッシュラン、鉄鋼スラグ、砂など		0.25~0.15																							
セメント安定処理および石灰安定処理		0.25~0.15																							
セメントコンクリート版	破損の状態が軽度または中度の場合	0.9																							
	破損の状態が重度の場合	0.85~0.5																							
クラッシュラン、鉄鋼スラグ、砂など		0.25~0.15																							
セメント安定処理および石灰安定処理		0.25~0.15																							
セメントコンクリート版	破損の状態が軽度または中度の場合	0.9																							
	破損の状態が重度の場合	0.85~0.5																							
84	下から6行目	(6) 補修断面の決定	(5) 補修断面の決定																						
85	上から1行目	(7) 設計上の留意点	(6) 設計上の留意点																						
106	下から3行目	開粒度アスファルト混合物	開粒度アスファルト混合物 (13)																						
121	下から2行目	タイバーア <del>ッ</del> センブリ	タイバーアセンブリ																						
126	表4-8-4の3列2段目 上から5行目	小粒 <del>系</del> 骨材露出舗装	小粒 <del>径</del> 骨材露出舗装																						
135	上から15行目	環境保全・改善	環境 <del>の</del> 保全と改善																						
137	上から2行目	衝撃を測定する <del>手法</del>	衝撃を測定する <del>方法</del>																						
140	上から19行目	凍上 <del>抑制</del> 対策	凍上対策																						
149	上から1行目	発注者は発注工事 <del>毎</del>	発注者は発注工事 <del>ごと</del>																						
173	付表-2.2 5列2段目	$(\log_{10}X_{wi} - \log_{10}X_0)2$	$(\log_{10}X_i - \log_{10}X_0)2$																						
193	上から4,6,7行目 式および説明文	$a_i$ , $h_i$	iを下付き文字に: $a_i$ , $h_i$																						
197	付表-5.1	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">セメント・コンクリート版の設計</th> </tr> <tr> <th>設計基準曲げ強度</th> <th>版厚</th> <th>鉄網</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">4.4MPa (3.9MPa)</td> <td>15cm (20cm)</td> <td rowspan="6">原則として使用する。 3kg/m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>15cm (20cm)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">4.4MPa</td> <td>25cm</td> </tr> <tr> <td>28cm</td> </tr> <tr> <td>30cm</td> </tr> </tbody> </table>	セメント・コンクリート版の設計			設計基準曲げ強度	版厚	鉄網	4.4MPa (3.9MPa)	15cm (20cm)	原則として使用する。 3kg/m <sup>2</sup>	15cm (20cm)	4.4MPa	25cm	28cm	30cm	2を上付き文字に 3kg/m <sup>2</sup> ⇒3kg/m <sup>2</sup>								
セメント・コンクリート版の設計																									
設計基準曲げ強度	版厚	鉄網																							
4.4MPa (3.9MPa)	15cm (20cm)	原則として使用する。 3kg/m <sup>2</sup>																							
	15cm (20cm)																								
4.4MPa	25cm																								
	28cm																								
	30cm																								
200	上から5行目		段落の始まりなのにスペースが無い 横収縮目地の設置間隔は・・・	スペースを入れる <input type="checkbox"/> 横収縮目地の設置間隔は・・・																					
202	付表-6.2.2 2列4段目の欄	(10)+20+ <del>325</del> +5@40+32.5+20+(10)	(10)+20+ <del>32.5</del> +5@40+32.5+20+(10)																						
204	付図-6.2.4	<p>(誤) 鉄鋼 → (正) 鉄網</p>																							
205	上から2行目	鉄筋量は1m <sup>3</sup> につき	鉄筋量は1m <sup>2</sup> につき																						

舗装設計施工指針 (H18.2) 正誤表 [2/5]

205	付図-6.3.1																
206	上から 1 行目	付付図-6.4.2	付図-6.4.2														
206	付図-6.4.1	<p>(誤) 鉄鋼D6 と鉄筋鉄鋼D13 → (正) 鉄網D6 と鉄筋鉄網D13</p>  <p>(誤) 鉄筋鉄鋼D13 を 2 層に用いる → (正) 鉄筋鉄網D13 を 2 重に用いる</p>															
209	付式(7.1.2)	括弧が欠落 $N = \sum_{i=1}^n (N_{17} \times 365 \times a_i)$	括弧を追加 $N = \sum_{i=1}^n (N_{17} \times 365 \times a_i)$														
214	付表-8.1.2 4 列 5 行目	<table border="1" data-bbox="526 1052 798 1232"> <tr><th colspan="2">舗装用素材</th></tr> <tr><td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">骨材</td><td>砕石</td></tr> <tr><td>鉄鋼スラグ</td></tr> <tr><td>スクリーニングス</td></tr> <tr><td>ファイバー</td></tr> </table>	舗装用素材		骨材	砕石	鉄鋼スラグ	スクリーニングス	ファイバー	<table border="1" data-bbox="1037 1052 1308 1232"> <tr><th colspan="2">舗装用素材</th></tr> <tr><td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">骨材</td><td>砕石</td></tr> <tr><td>鉄鋼スラグ</td></tr> <tr><td>スクリーニングス</td></tr> <tr><td>ファイバー</td></tr> </table>	舗装用素材		骨材	砕石	鉄鋼スラグ	スクリーニングス	ファイバー
舗装用素材																	
骨材	砕石																
	鉄鋼スラグ																
	スクリーニングス																
	ファイバー																
舗装用素材																	
骨材	砕石																
	鉄鋼スラグ																
	スクリーニングス																
	ファイバー																
225	付表-8.1.15 付着度の欄	2/3 以下	2/3 以上														
226	付表-8.1.16 MS-1 の凍結安定度の欄	粗粒子、塊のないこと	MS-1 の凍結安定度の欄の記述「粗粒子、塊のないこと」を削除し、PKR-S-2 の凍結安定度の欄へ移動														
240	付図-8.2.1 2 番目の項目欄	材料の選定(材料試験) アスファルト、骨材、ファイバー	素材の選定(素材の品質確認試験) 瀝青材料、骨材、ファイバー														
243	付図-8.2.3 右下の図	空間率	空隙率														
247	付図-8.2.4 11 番目の項目欄	水セメント比を決定	水セメント比の決定														
247	付図-8.2.4 最後の項目欄	TND	END														
251	上から 5 行目	f t 28	f t <sub>28</sub>														
253	付表-8.2.8	セメントCの④-2の欄	140	93.7													
253		セメントCの④-3の欄	140	295													
256	付図-8.2.7 セメント水比の右端の目盛り	1.4	2.6														
257	付表-8.2.11 (6)	実績率	実績率														
257	付表-8.2.11 (7)	AE助剤	AE助剤 (商品名を記入)														
273	付表-9.2.1 4 列 1 段目	等値換算係数 an	等値換算係数 a														

舗装設計施工指針 (H18.2) 正誤表 [3/5]

278	付表-9.2.7	アスファルト舗装とコンクリート舗装に再生セメント・瀝青安定処理を追加					
		項目 適用	工法・材料	修正CBR %	一軸圧縮 強さMPa	マージナル 安定度KN	その他の品質
		アスファルト 舗装	再生粒度調整碎石	80以上 [90以上]			PI4以下
			再生加熱アスファルト 安定処理			3.43以上	フロー値10~40 (1/100cm)
			再生セメント処理			材令10日 2.9	
			再生石灰処理			材令7日 0.98	
			再生セメント ・瀝青安定処理				一次変位量5~30 (1/100cm) 残留強度率65%以上
		コンクリート 舗装	再生粒度調整碎石	80以上 [90以上]			PI4以下
			再生加熱アスファルト 安定処理			3.43以上	フロー値10~40 (1/100cm)
			再生セメント処理			材令10日 2.0	
			再生石灰処理			材令7日 0.98	
			再生セメント ・瀝青安定処理				一次変位量5~30 (1/100cm) 残留強度率65%以上
293	付表- 9.4.5	1列5段目	蒸発残留分	1/10mm	蒸発残留分	%	
		1列6段目	針入度 (25℃)	%	針入度 (25℃)	1/10mm	
		1列8段目	貯蔵安定度 (24hr)		貯蔵安定度 (24hr)	%	
309	下から5行目		$K_p$		$k_p$		

2010/2/4 追加修正

頁	箇所	誤	正
14	表-1.4.1		図書情報を更新
40	表-2.4.4 ひび割れ線 上ひび割れ (走行軌跡 部縦方向)	わだち割れ	混合物の劣化・老化
52	上から3行目	脆弱化	軟弱化
72	図-3.6.1	<pre> graph TD     A{寒冷地域}     </pre>	<pre> graph TD     A{寒冷な地域か}     B[→法令上の用語と区別するため]     </pre>
76	図-3.6.3	<pre> graph TD     A[多層弾性理論による計算 (ひずみ等)] --&gt; B{i=k}     B --&gt; C{経済的評価}     </pre>	<pre> graph TD     A[多層弾性理論による計算 (ひずみ等)] --&gt; B[破壊規準式による 破壊回数の計算]     B --&gt; C{i=k}     C --&gt; D{力学的安定性}     D --&gt; E{経済性評価}     </pre>

舗装設計施工指針 (H18.2) 正誤表 [4/5]

77	図-3.6.4	交通条件 輪荷重分布 車輪走行位置 コンクリート版温度差が正 または負のときに走行する 交通量	交通条件 輪荷重分布 車輪走行位置 コンクリート版温度差が正 または負のときに走行する 大型車交通量の比率
157	表-6.4.1		「平たん性」「浸透水量」の欄を削除
158	表-6.4.2		同上
243	付図-8.2.3		・飽和度のグラフの横軸にアスファルト量を追記.  5.0 5.5 6.0 6.5 7.0 アスファルト量 (%)  ・フローのグラフの点線のアス量5.3%付近がピークとなるように変更し、ピークに点をプロット。(飽和度のグラフのように) →p.245②にこれに関する説明記述があるため.
243	付図-8.2.3 一番右下のグラフ	空間率	空隙率
298	付表-9.5.1		「平たん性」の欄を削除
299	付表-9.5.2		同上
303	付表-9.5.5		「平たん性 mm」「2.4以下」を削除
309	付式 (5.1)	$n = \left( 1 + \frac{\kappa}{2} \right) \left( \frac{k_{\alpha} + k_{\beta}}{K_{p0} + k_{p1}} \right)$	$n = \left( 1 + \frac{\kappa}{2} \right) \left( \frac{k_{\alpha} + k_{\beta}}{K_{p0} - k_{p1}} \right)^2$
311 -312	付表-10.1.1		・「平たん性」「浸透水量」の欄を削除. ・〔注2〕を削除
341	上から3行目	路盤のくい込み	路盤にくい込み
	協会出版図書案内の 図書のページ数	舗装設計施工指針→342 舗装設計便覧→338	舗装設計施工指針→345 舗装設計便覧→316

2021/4/22 追加修正

頁	箇所	誤	正
138	5-3設計 上から3行目	39kN 程度以下の管理用車両	最大積載量が 39kN 程度以下の管理用車両

2023/10/10 追加修正

頁	箇所	誤	正
68	表-3.5.1 「透水性」の行	水質系材料	木質系材料
69	表-3.5.2 「明色性」の行	石質タイル	石器質タイル
70	表-3.5.3 「予防的維持」の行	アスファルト系材料	アスファルト系材料 (表面処理型)

## 舗装設計施工指針 (H18.2) 正誤表 [5/5]

2024/1/22 追加修正

頁	箇所	誤	正
216	付表-8.1.4 「コンクリート版-鋼材-ダウエルバー-鋼材」の行の摘要欄	JIS G 5112	JIS G 3112